

地域の経済動向（令和4年10～12月期）
《十勝地域》

1 経済動向に係る企業等の声（10～12月期）

【建設業】

【製造業】

- ・原料である生乳の高騰については値上げができたが、エネルギーや輸送コストの上昇分は製品価格に転嫁できていない。（製造業）
- ・若者の採用が難しく、将来を見据えた人材育成が課題。（製造業）
- ・原木は相変わらず数量不足で、単価は高止まり。それに加えて、重機や乾燥機の燃料及び電気料金の値上がりで製造原価は異常な上がり方だが、製材単価の見直しが出来ているため、収益状況は何とか不変で推移している。（製造業者）

【卸売・小売業】

- ・半導体不足で除雪機の生産台数が減少。店舗が要望する数の確保ができず、品薄感が強まっている。（機械販売業）
- ・人材不足が長期化し、自社だけでなく業界全体で社員が高齢化している。（建築材料卸売業）
- ・コロナ禍の半導体不足が除雪機生産台数減に拍車をかけ、店舗要望の荷台数が確保できず、品薄感が強くなっている。（機械販売業）

【運輸業】

- ・ガスの運搬には様々な資格が必要であり、人材育成には時間を要するので、先を見越して運転手を募集しているが、応募は低調である。（ガス運搬事業者）
- ・運転手の高齢化による労働力不足が進展しているほか、燃料価格高騰によるコスト上昇が経営を圧迫（燃料高騰分を配送料金に転嫁できない）している状況が続いている。（運送事業者）

【サービス業】

- ・水際対策の緩和に伴って、訪日外国人観光客の回復を見据えた受入態勢づくりを本格化しているが、コロナ禍で従業員を一度解雇したため、人手不足で客室の稼働を抑えなくてはならない。（宿泊業）
- ・採用活動の追い風にもなるように、働き方改革や健康経営、社内DXに積極的に取り組んでいる。（土木建築サービス業）
- ・新型コロナウイルスの水際対策緩和による訪日外国人観光客の回復を見据え、受入態勢づくりが本格化しているが、コロナ禍の休業に伴い従業員を一度解雇したため、再び確保するのに苦労している事業者も多く、海外客が回復しても、人手不足のため客室の稼働を抑えなければならない状況。（観光業）
- ・市内ビジネスホテルで人手不足が深刻化し、求人を出しても人材は集まらず、既パート従業員のフル出勤が続いている。しかし、配偶者控除の上限額があるため、人手不足でも出勤日数を減らさざるを得ない。更に、コロナ禍前より客室数が減った影響で満室状態が続き、宿泊料金も上昇している状況。（宿泊業）
- ・前年比では宿泊者数は増加しているが、令和元年を通常期と捉えると約7割強程度の回復となっている。外国人観光客も増加しているが、回復までには時間がかかると予想。全国旅行支援（HOKKAIDO LOVE!割）には期待している。（宿泊業）
- ・12月から3年ぶりに営業再開。年内はシンガポールからの予約で盛況。年明け以降はオーストラリアからの予約が堅調。（宿泊業）





【関係機関・団体】

- ・仕入れ価格の高騰分を料理等の値上げに転嫁出来ず（地元のなじみ客が多く値上げが難しい）、更に客足も戻らない状況で、店を続けていくことが難しい飲食店が多い。（商工会）
- ・飲食業について、ランチ営業など昼の客層は戻ってきている印象。しかし、居酒屋については、企業など大口の団体客の予約が戻らない業況が続いている。また、スナックも2次会客が戻らず厳しい状況。（商工会）









2 道内金融機関から見た地域景況感 (10~12月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

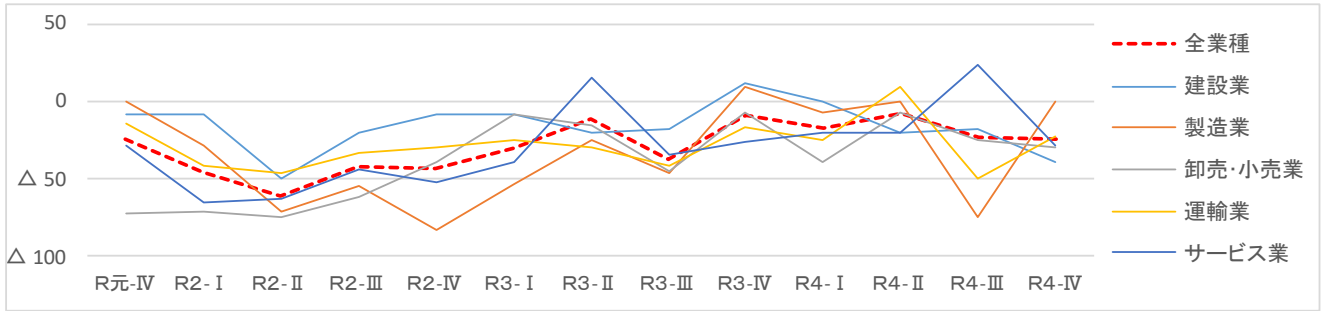
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
帯広信用金庫				当金庫が実施した今期の地域企業景況動向調査では、地域企業の業況判断 DI は前期実績及び今期見通しからの「悪い超」幅を縮小し、△25 となった。「売上額」は前期比 1 ポイント増加し△12、「収益」は前期比 7 ポイント減少し△26 となった。生産動向については、製造業の「業況判断」が前期比 3 ポイント悪化し、△30 となった。消費動向については、小売業の「業況判断」が「悪い超」幅を縮小し、△31 となった。		次期の「業況判断」は△31と今期から 6 ポイント悪化。一方で、「売上額」、「収益」は増加する見通し。「仕入・材料価格」については 63 と、依然として高止まりする見通し。

【景況感の推移】

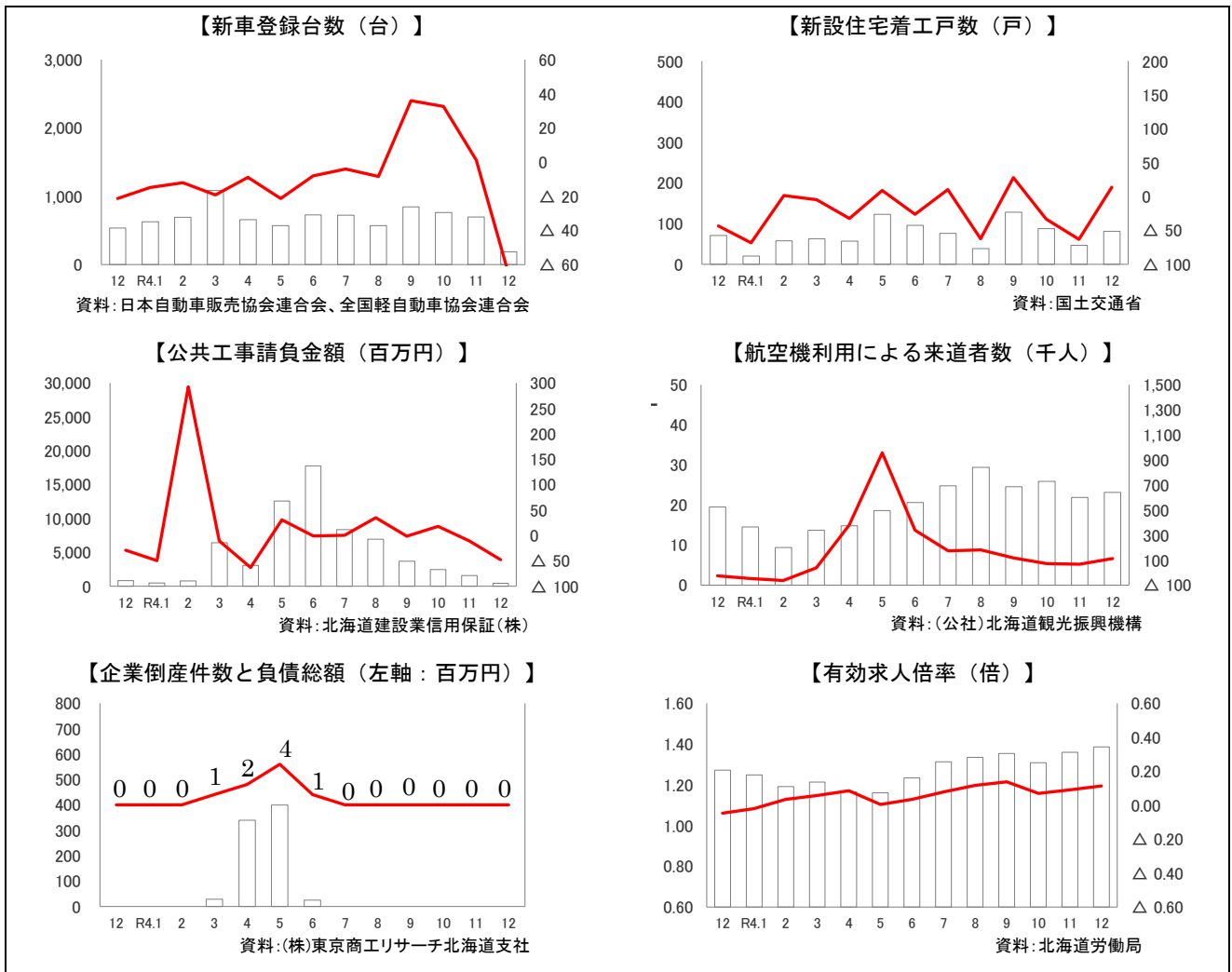
	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV
帯広信用金庫								

3 業種別の業況感BSI（企業経営者意識調査）



	R元-IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV
全業種	△ 25	△ 46	△ 62	△ 42	△ 44	△ 30	△ 11	△ 38	△ 9	△ 17	△ 8	△ 24	△ 25
建設業	△ 9	△ 9	△ 50	△ 20	△ 9	△ 9	△ 20	△ 18	11	0	△ 20	△ 18	△ 40
製造業	0	△ 29	△ 71	△ 55	△ 83	△ 54	△ 25	△ 46	9	△ 8	0	△ 75	0
卸売・小売業	△ 73	△ 71	△ 75	△ 62	△ 39	△ 9	△ 16	△ 45	△ 8	△ 40	△ 8	△ 25	△ 30
運輸業	△ 15	△ 42	△ 46	△ 34	△ 30	△ 25	△ 30	△ 42	△ 17	△ 25	9	△ 50	△ 23
サービス業	△ 29	△ 65	△ 63	△ 44	△ 53	△ 40	15	△ 35	△ 26	△ 20	△ 20	23	△ 29

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同期比、その他は前年同期比(差)：%)